

第26回 手話通訳技能認定試験（手話通訳士試験） 「読取り通訳試験」問題（要約文）

第1問「薬剤師からの説明」（要約文）

薬剤師の三井と言います。私は耳が聞こえないので、手話通訳を介してお話しします。

ご質問のジェネリック医薬品について、ご説明します。今お飲みの薬は、いわゆる「先発医薬品」といい、それに対して、ジェネリックは「後発医薬品」となります。安全性や有効性はどちらも同じです。ジェネリック医薬品のメリットは、低価格です。先発医薬品の2割から7割で手に入ります。研究開発や安全性にかかる費用が抑えられるからです。

お薬をたくさん服用している方や長期に服用している方は、負担額が安くなります。あなたの場合、今お使いの全てのお薬がジェネリックに変更が可能です。もしご心配であれば、医師と相談されてはいかがでしょうか。

第2問「運転免許取得の思い出」（要約文）

私が18歳の頃、ろう者の先輩が車を運転しているのを見て、自分も運転したいと思いました。

しばらくして、ろう協から、教習所に通えるというお知らせをもらい、ろう者8人で教習所に行きました。

教習前に、漢字の読み方を書かせる試験を受けさせられ、二人が不合格だったのですが、「みんながフォローするから。」と教習所をお願いをし、8人全員で教習を受けることになりました。

手話通訳もつき、教習は無事終了しました。本試験では、共に教習を受けた一人と受験しましたが、私だけ合格しました。もう一人は、再チャレンジして合格しました。

結局、8人中一人は期限切れで免許をとることができませんでしたが、ほかの7人は、無事免許を取得することができました。

第26回 手話通訳技能認定試験（手話通訳士試験）

「聞取り通訳試験」問題

第1問「世界の天辺に登る夢」

プロスキーヤーで登山家の三浦雄一郎さんは、昭和41年に富士山のスキー滑降、昭和45年にエベレスト8,000メートル地点からのスキー滑降など、世界七大陸すべての最高峰からのスキー滑降を、53歳で成し遂げました。

その後、三浦さんは、年に数十回の講演、本の執筆、通信制高校の校長としての職務の忙しさの中で、次第に、運動から遠ざかっていきました。しかし、食欲はあまり衰えず、65歳のとき、164センチの身長に対して体重は86キロ、体脂肪率は40パーセントを超え、糖尿病の一步手前と診断されてしまいます。

その時、「このままでは死んでしまう。死ぬ前に、死ぬ気でやれば何かできるはずだ。」と考え、即決したのが、エベレスト登山でした。翌日からトレーニングを開始し、70歳、75歳と5年ごとにエベレストの頂上に立ち、昨年5月、史上最高齢の80歳でエベレスト登頂に成功しました。

「ゆっくりでも着実に歩き続ければ、目的地に着く。」と言う三浦さんの言葉に、多くの方が励まされています。

第2問「職務に専念する義務」

公務員には「職務に専念する義務」というものがあります。つまり、勤務時間及び職務上の注意力のすべてを職責遂行のために使いなさいというもので、副業に就くことを禁じています。

ただ例外的に、農家である実家の仕事を手伝ったり、不動産の家賃収入を得たりすることを認めるケースはありますが、そちらに一生懸命になりすぎて、本業に影響がある場合は、認められません。

公務員の中には、講演を頼まれる方も多くいらっしゃると思います。いわゆる兼業として私的に行うのか、職務の一つとして行うのかで対応は違いますが、兼業として引き受ける場合には、通常「職免」とも呼ばれている職務専念義務免除申請書を提出し、所属長などから許可を得る必要があります。

仮に、手続きをせずに引き受けてしまうと、後で問題となったときに代償は大きいのです。公務員としての自覚をもってほしいと思います。